戦傷病者史料館

しょうけい館通信

戦後80年をこえて



Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

TOPICS

P2　令和7年度 特別企画展
P3　常設展示コーナー紹介「ある兵士の手記」
P6　インタビュー 次世代の語り部として活動する思い

Vol.004
August 2025

TOPICS 1 ｜ 戦後80年をむかえて

戦争によるけがや病気で障害を負うなどした戦傷病者には、療養手当などを支給する戦傷病者手帳が交付されてきました。ピーク時に15万人以上であった交付者数は、年を追うごとに減少し、今年ついに秋田県、山形県では交付者が一人もいなくなったことがわかりました。

しょうけい館では、かねてより戦争体験者不在の時代に備えて証言の映像記録や次世代の語り部の活動を進めてきました。

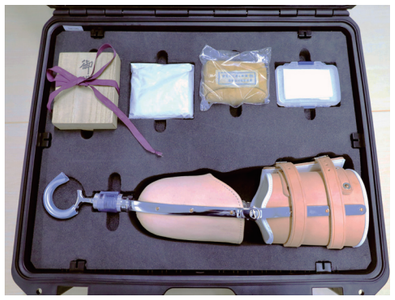
戦後80年の今年、思いを新たにこの戦傷病者労苦継承の活動を続けてまいります。

▶新たな活動の紹介

オンライン学習支援プログラム

今年度より中学・高校の団体向けプログラムとして、オンライン学習支援プログラムを実施しています。このプログラムは、学校への資料レプリカの貸出と、オンライン会議システムを用いたスタッフによる解説をセットにしたものです。実物資料を忠実に再現したレプリカを手元で観察しながら、戦争当時の時代背景や戦傷病者に関する解説を聞くことができるので、中学・高校生により深い理解を促せる構成となっています。

また、オンラインでの実施を前提としておりますので、どれだけ遠方であってもインターネットが接続できて、オンライン会議が利用できる環境であれば場所を問いません。平和学習や総合的な学習の時間で利用できるプログラムをお探しの学校関係者の方がいらっしゃいましたら、ぜひお申し込み下さい。



貸出用の資料レプリカ



プログラム中の学校の教室



レプリカ（弾の跡のある煙草ケース）に触れる

※問い合わせ先：しょうけい館事務局
　電話：03-3234-7821　メール：yoyaku@shokeikan.go.jp

▶テーマ別展示

心の傷を負った兵士

先の大戦で心の傷を負った兵士の概要や、国府台陸軍病院、傷痍軍人療養所を紹介します。また、精神疾患となった戦傷病者が制作した作品などを展示しています。

会　期　令和7年7月23日（水）より10月19日（日）まで
会　場　しょうけい館 3階常設展示室テーマ別展示コーナー
時　間　10：00～17：30（入館は17：00まで）



下総療養所に入所していた戦傷病者の作品

▶特別企画展

戦後80年 特別企画展
武良 茂（水木 しげる）の戦争体験 / 水木しげるが残した言葉を探そう！（ゲゲゲの鬼太郎　館内謎解きラリー）

終戦から80年が経過した今年、戦争体験を後世に伝えていくことは、ますます重要な課題となっています。戦傷病者やその妻が、どのような戦争体験をしてきたのかを振り返り、考えていくことも、戦争を経験していない私たちの役割となっています。

本展では、戦傷病者であり、著名な漫画家である水木しげる氏（本名：武良茂）の、戦地パプアニューギニアでの軍隊生活と受傷病、現地の人びととの交流や、代表作『総員玉砕せよ！』、『昭和史』などの作品に描かれることとなった水木氏の戦争体験について紹介します。

また、9月7日（日）まで、夏休み連動企画として「ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー」を開催しています。2階特別企画展でゲゲゲの鬼太郎の生みの親である水木しげるの戦争体験を学び、3階常設展示室に隠されたヒントから「水木しげるが残した言葉」を見つけるクイズラリーです。

正解者にはゲゲゲの鬼太郎グッズ（数量限定）をプレゼントします。

水木氏の描いた作品や言葉を通して、氏の体験した戦争について考えてみませんか。

会　期　令和7年6月3日（火）より10月13日（月）まで
会　場　しょうけい館 2階企画展示室
時　間　10：00～17：30（入館は17：00まで）

特別企画展

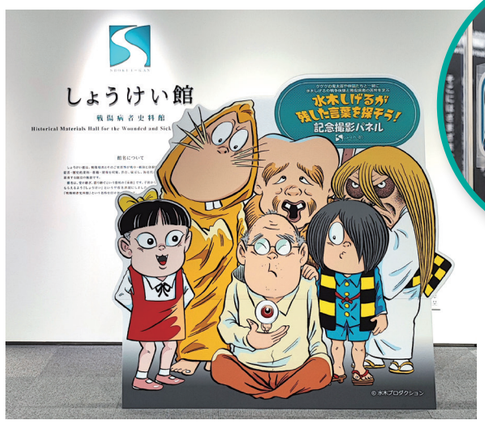


展示資料



ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー







常設展示コーナー紹介

ある兵士の手記



当館の常設展示室では、各コーナーの冒頭に「ある兵士の手記」と題した導入画像を設けています。この画像は、戦中から戦後に至る歴史の大きなうねりの中で、戦傷病者が辿ってきた道のりを一人の名もなき「兵士」の人生として、見る人に追体験してもらうことを意図したものです。体験を伝える言葉（手記）と画像を織り交ぜて、出征や受傷、療養生活、社会復帰といった各局面における彼らの労苦と葛藤を、簡潔に伝えています。

ここではその画像の一部をご紹介します。

1 戦地へ向けて



入営した部隊では、
慣れない集団生活、厳しい訓練、
同年兵と共に兵士として
教育をうけた。



地域の人に見送られ、
大勢の兵士を乗せた汽車は
港へ着いた。
港を出た船は南へ向かった。



戦地では過酷な日々が続いた。
昼はジャングルに潜み、
夜は道なき道をゆく日々が続く。

2 戦地での受傷・治療



全身に激痛が走った。
右足が焼けるように熱い。
「やられた！」と叫んだ。



うすらぐ意識の中で
衛生兵に励まされながら、
応急止血をしてもらう。
翌朝には仮包帯所に運ばれた。



麻酔もなく、
身体をおさえつけられて
手術の激痛に耐えた。

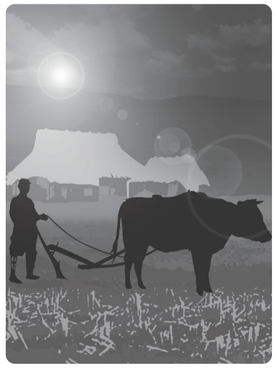
3 搬送・戦時下の療養生活



野戦病院から
さらに大きな病院へうつされ、
やがて本土へ送り返されることが
決まった。



再び日本の土を踏んだ。
しかし自分の身体は
以前のものではない。
病院でまた手術を受けた。



義足で農業を手伝った。
一人前に働きたいが、
出征前のようには身体が動かない。

4 家族とともに



病気で入院している
戦友を見舞った帰り、
街頭の白衣募金者に
見覚えのある顔をみつけた。



家と畑の往復で、
無我夢中の毎日だった。
今でも時どき傷口がうずく。
くじけそうになった時は、
いつも妻が支えてくれた。



もう二度とこのような戦争のない
平和な世界であることを願いたい。
わたしのような経験をするのは、
わたしの世代で終わってほしい。

次世代の語り部講話会

失明戦傷病者と戦盲歌

しょうけい館では、戦傷病者とそのご家族の体験を戦後世代の語り部が語り継ぐ、次世代の語り部活動を行っています。その活動の1つに毎月第二日曜日に開催される定期講話会があります。

2025年6月の定期講話会では、語り部による講話に加え、戦争で失明した戦傷病者の苦労を詳しく紹介するため、歌人の佐佐木頼綱さんと歌手の神戸(かんべ)薫子さんをゲストに迎えて講話会を実施しました。佐佐木頼綱さんの曽祖父、佐佐木信綱さん（歌人・国文学者）は戦時中、戦地で失明した元兵士たちを慰問し、短歌創作の指導を数多くおこなってきました。そして、元兵士たちの作品を合同歌集としてまとめ、刊行しました。この歌集に作曲家の越谷達之助さんが曲を付け楽譜に起こしたものが『歌曲集　戦盲歌』になります。佐佐木頼綱さんと神戸薫子さんは、この戦盲歌を今に伝える活動をしています。

戦後80年を迎える中、一人でも多くの方に戦盲歌について知っていただきたいという思いから、佐佐木さんと神戸さんのご協力のもと、昨年度に続いて実施しました。

講話会では、戦盲歌の解説を佐佐木頼綱さんにしていただき、神戸さんには素晴らしい歌をご披露いただきました。失明という受け入れ難い現実と向き合いながらも、懸命に生き抜いた方々が短歌に込めた想いや平和への願いなどを知る機会となりました。



戦盲歌の解説をする佐佐木さん


歌唱を披露する神戸さん

参加者の感想

学校などでは聞けない話を一から丁寧にお話いただき、より興味が持てました。


10代女性

語り部講話と戦盲歌の解説、歌唱を組み合わせることで、双方の理解が深まりました。


40代女性

今まであまり取り上げたことがなかったテーマだと思います。そして、神戸さんの歌が素晴らしかったです。戦盲歌の存在を知らなかったので自分でも調べたいと思いました。


50代男性

次世代の語り部として活動する思い

次世代の語り部は、しょうけい館で3年間の研修を修了した21名から構成されています。館内の資料をもとに、当時の社会状況などを交えながら戦傷病者の体験を伝えています。

今回は、小口さんに語り部を目指したきっかけや、活動に対する想いを伺います。

▶インタビュー

―語り部を目指したきっかけを教えてください。

幼い頃より、祖母がニューギニア戦で24歳の若さで亡くなった息子（私にとっては伯父）の冥福を祈る姿を見てきました。伯父の遺骨は、わずか小指の骨だけを戦友が持ち帰ってくれたことで日本に帰ってきたという話を聞き、子供心に衝撃を受けました。その後も戦争の悲惨さが心から離れることはなく、より深く理解するために大学で昭和史を学び直しました。その際、先輩からしょうけい館の語り部事業について聞き、「私も伝えたい！」と強く思い、語り部を目指しました。

―今までの講話活動の中で印象に残っていることを教えてください。

息子の母校である地元の中学生へ向けて、講話をする機会がありました。講話の前に、「私も同じ駅から来た」、「みんなが歌っている『大地讃頌』は30年以上前から歌い継がれている」と伝えたとたん、中学生の意識と視線がこちらを向き、私の声と思いを受け取ろうという姿勢を感じました。中学生にとって身近な存在として講話できたことはとても貴重な体験でした。後日、お礼の手紙をいただき、とても嬉しい気持ちになりました。

―語り部講話を通して伝えたいことを教えてください。

戦後80年を迎え、過去の戦争の記憶が遠のいていることを実感しています。私の祖母は戦死した息子の慰霊のため、戦後ニューギニアを訪れています。当時の写真を見ると、とにかく亡き息子の最期の地に降り立ちたかったという思いが伝わります。それは母が子を思う真実の気持ちでしょう。戦争は恐ろしいと目を背けるのではなく、真実を正しく知ることが必要だと考えています。今後も、気持ちが相手に届くような講話を心がけ、語りによって平和への思いが繋がっていくことを願っています。





小口 あや子(おぐち あやこ)

2017年にしょうけい館の語り部に応募。3年間の研修を経て次世代の語り部として活動を開始。趣味は街道歩きと史跡巡り。既に東海道は徒歩で制覇し、現在は日光街道に挑戦中！講話では、幼い時に沖縄戦に巻き込まれ、片足を失ってしまった戦傷病者の話をしている。

語り部の講話は毎月第二日曜日に開催する定期講話会のほか、団体見学などで聴くことができます。
詳細はホームページをご確認ください。

イベントスケジュール(予定)

6/3(火) ▶ 10/13(月・祝)
戦後80年特別企画展「武良茂(水木しげる)の戦争体験」

7/19(土) ▶ 9/7(日)
ゲゲゲの鬼太郎 館内謎解きラリー
「水木しげるが残した言葉を探そう!」

7/19(土) ▶ 9/7(日)
夏休み3館めぐりスタンプラリー

7/23(水) ▶ 10/19(日)
テーマ別展示「心の傷を負った兵士」
併設「寄贈資料紹介」

8/13(水)・14(木)・15(金)
語り部 夏の集中講話会

9/14(日)・10/12(日)
語り部定期講話会(9・10月)

戦傷病者・ご家族へのお知らせ

資料寄贈のお願い

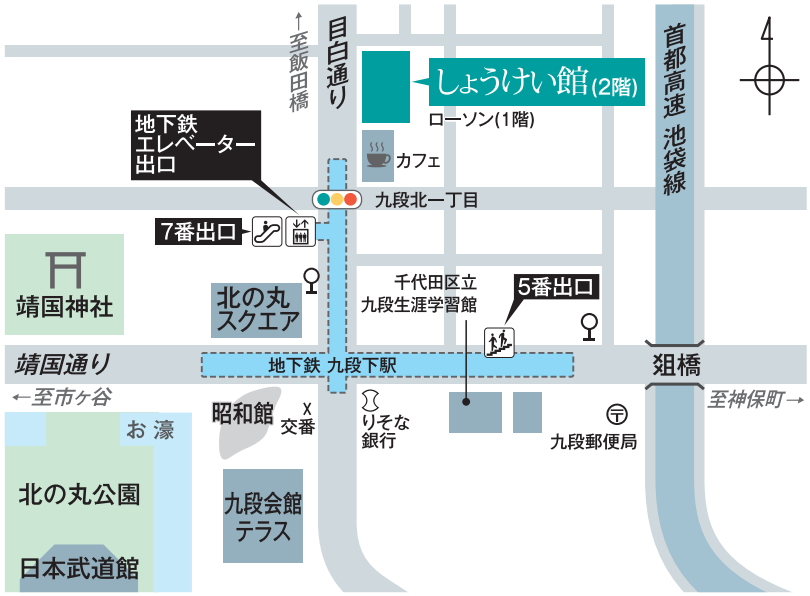
戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とそのご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力いただける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

ご来館のみなさまへ



地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ
  九段下駅(東西線・半蔵門線)
  7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄
  九段下駅(新宿線)
  7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスを利用の場合

- 都営バス
  九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス
  千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。

SHOKEI-KAN
しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers,etc.

www.shokeikan.go.jp
東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階
Tel:03(3234)7821　Fax:03(3234)7826
開館時間:10:00~17:30(入館は17:00まで)
休館日:毎週月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)